



「教育改革元年」の取組みを進めるにあたって

高等教育推進センター長 寺岡 英男

2009年9月に発足した高等教育推進センターも、ほぼ2年が経とうとしている。本学の長期目標（教育）の「21世紀のグローバル社会において、高度専門職業人として活躍できる優れた人材を育成」をふまえて、中期目標では、教育の質保証、その実現のための教育実施体制の整備、学生の成長を促す学習・生活・就職支援を行う大学づくりを掲げている。

また、このような本学の目標と関連するが、国の高等教育政策のなかでも2008年の中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」やそれを受けての日本学術会議の各種提言の中で、グローバル化され、ユニバーサル段階に入ったなかでの大学教育の改革が喫緊の課題であることが言われている。

このような状況の中で福井大学の教育改革の取組みが求められているのであるが、本センターは文字通りその中心的な役割を果たすことが期待されている。

発足後半年の助走期間を経て、昨年度1年間は、その教育改革を進める上で、足もとの学生の生活実態を明らかにしようということで、生活、学習面を中心に大規模な調査を行った。そこでは学生の生活を支える家計の財政状況が厳しいことや授業以外の学習時間が極めて少ないことなどが明らかになった。それと並行して学生の自殺や留年問題などを学生の問題・責任に還元するのではなく、大学全体として、教員・職員とカウンセラーの協働による学生中心の支援体制を構築する取組みを進めた。

このような足もとの実態をふまえ、今年の年頭には学長が「教育改革元年」を宣言した。そこには、学生の教育への権利を保障し、他大学に誇る教育改革に取組まなければならない決意が込められている。

今年度は、本センターは、「教育改革元年」にふさわしい取組みを進めなければならない。そこでは、学生支援のシステムを一層改善しながら、まさに本丸である、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを確定し、教育のスタンダードをふまえたカリキュラムづくりと評価の課題に焦点を合わせて行かなければならないと考えている。そのためにいくつかの手立てが講じられている。

1つは、人事の面で、センター専任のポスト（特命助教）が新設された。また、学内からも新たに兼任教員として1名加わってもらい、本丸の課題に専門的な立場から取組むことのできる体制を整えつつある。2つ目は、財政的な面で、今年度は予算の枠組みの見直しの中で教育関係も整備・充実され、念願の本センター独自の予算も配分された。3つ目は、交流の面で、8月の初めに行われる「全国大学教育研究センター等協議会総会」に参加し、他大学のセンター間の交流が始まろうとしている。いろいろな情報を集めながら、本センターの取組みに役立たせたいと考えている。

言うまでもないことだが、教育改革に取組むためには、このようなセンター独自の取組みだけではなく、大学全体の理解と力が不可欠であり、いっそうのご批判とご協力をお願いしたい。

内容

「教育改革元年」の取組みを進めるにあたって 寺岡英男 (1)
特集 学生実態調査2010 調査結果の概要 上野栄一(2)
三部門の取り組み (8)
入試企画部門 大久保 貢 (8)
FD・教育企画部門 田村 信介 (9)
学生支援部門 上野 栄一 (11)
高等教育推進センター活動日誌 (12)

特集 学生生活実態調査2010 調査結果の概要

高等教育推進センター 学生支援部門長 上野 栄一

福井大学では、「福井大学学生生活実態調査2010」を平成22年10月に実施しました。調査内容は、「基本事項」「家族」「住居と通学」「生活費」「生活実態」「健康状態」「大学の授業」「課外活動等」「意見・要望」の9大項目、約100以上の質問項目で構成されています。

調査は、全学部生・大学院生を対象に4,958名に配布し、2,441名の回収を得ました（回収率49.2%）。大規模な実態調査となったことは、これからの多様化する学生のニーズに応えることが可能となることを意味します。本学ではこれまで、学生満足度調査や学生の日常の声を聴きながら、大学施設の改修や学修・学生生活環境の改善に努めてきました。この調査結果は、更なる具体的な改善・充実に反映させようと考えています。

本調査は、ほぼ全学生（正規生）を対象とし、また、個人のプライバシーを侵害することのないよう、無記名式としており、回答者が特定されることがないように倫理的配慮をしています。調査は、平成22年10月1日～10月20日に実施されました。

調査の全容は、別途『報告書』として刊行されていますが、ここでは、その要点をまとめました。

日頃の生活実態

- 1) 起床時間（遅いとき） ⇒学部でも昼過ぎまで寝ている学生が多い。
授業中の居眠りなどの弊害もあるので生活指導が必要である。
- 2) 就寝時間 ⇒早いとき、遅いときのいずれも 24 時以降が多い（夜型）
授業中の居眠りや健康への影響も考えられる。今後の指導が必要である。
- 3) 睡眠 ⇒「ほとんど毎日不眠状態」「ときどき不眠になる」が結構多い。
睡眠は健康のバロメーターである。時々不眠も入れると、約 4 割いる。
- 4) 朝食 ⇒工学部では「食べないことが多い」「ほとんど食べない」が他学部・大学院に比べて多い（42.3%）。
- 5) 飲酒の回数 ⇒医学部（医学科）、大学院が多い（月 1 回以上 約 70%）
飲酒はほとんどの学生がしている。アルコールの健康への影響などの啓蒙活動も今後引き続き必要である。
- 6) 土曜・日曜・休日に過ごす相手
「一人」50%が前回より増加（前回 28%）であり、生活習慣が大きく変化していることが読みとれる。
前回実態調査では 40%であり、一人でゲーム、漫画、あるいはインターネットの利用が増えていることが考えられる。「その他の友人」20%となっている。



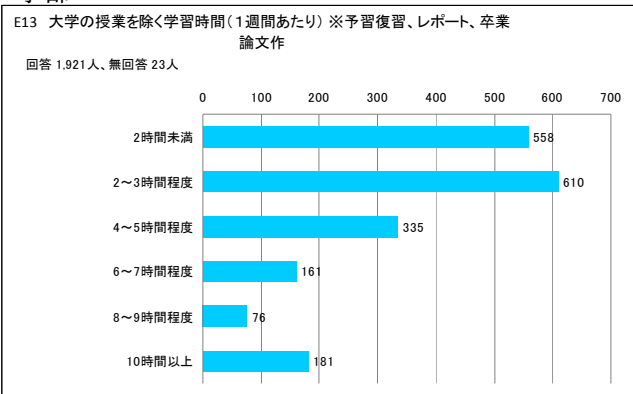
◆授業を除く学習時間（1 週間）

学部では、3 時間未満が 60% 教育・医学は 2～3 時間程度が多いが、工学部は 2 時間未満が多い（インターネット、学術書読書を加えると少し増える。）。

平均 4 時間程度は、全国平均よりやや少ない。前回調査では「ほとんどしない」「2～3 時間程度」86.7%であり、学年が上がるに従って、各学部とも時間数は増加している。

学習時間が少ない要因としては、受験勉強からの開放（大学での学びの意識不足）、大学生活のエンジョイ（サークル、娯楽、アルバイトなど）、履修科目が多く自学自習時間（空き時間）が少ない（教員免許、コアカリ、実験実習など）など、様々な要因が考えられる。今後は、学習時間を増やすために、初年次教育などによる「大学での学び」の指導、サークル活動やアルバイトへにおける指導などが必要と考える。

学部



（参考）

●1 週間あたり平均学習時間数（卒論作成等含む）

本学（学部）	3.7h	※1
全国平均	5.8h+3.5h（卒論）	※2
一橋大学	4.1h+3.6h（卒論）	※3

※1 「各ランク時間の中間値×人数」の計／全回答者数

ただし、10 時間以上は 10 時間で算出

※2 東京大学の大学経営・政策研究センター実施の
全国学生調査（2007 年）から

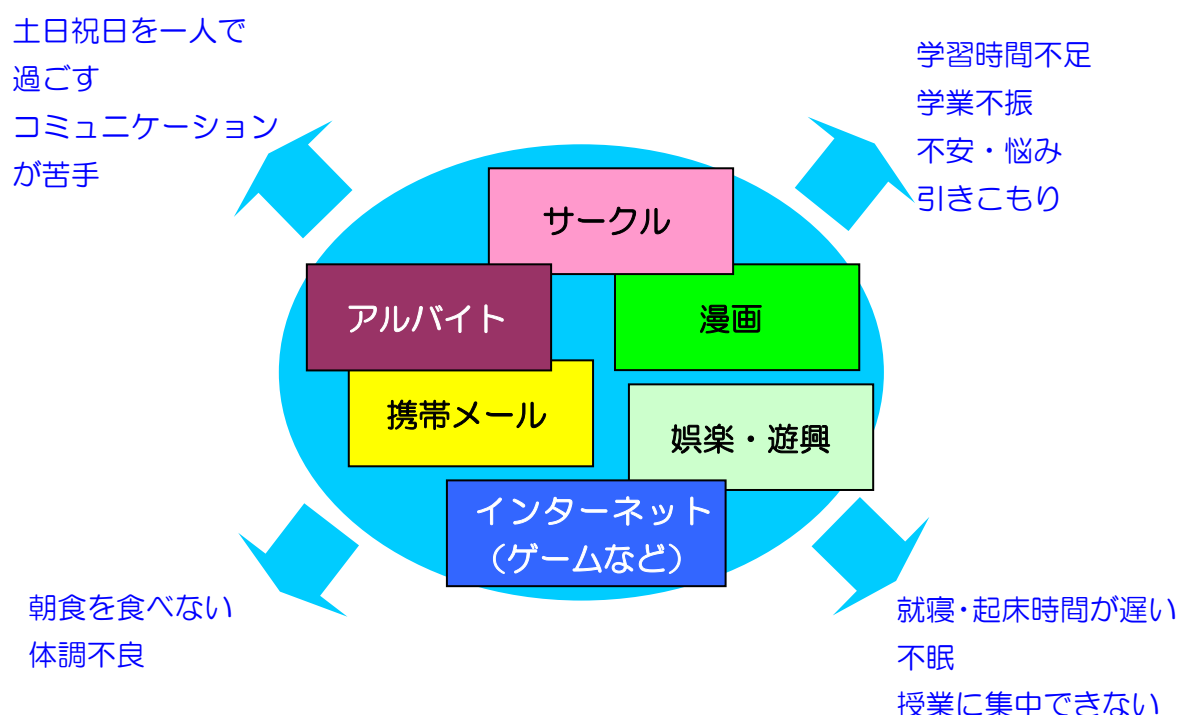
※3 一橋大学の全学部学生調査（2007 年）から

◆その他

- 1) 一般的な読書時間（1週間）は2時間未満 57.4%（前回 43%）と減少している。
勉強時間の減少とともに読書時間も減少している。
- 2) 新聞は教育地域科学部は比較的新聞を読んでいる。他学部・大学院では、ネットで読んでいる場合も考えられる。
- 3) インターネット利用時間（1週間）は、全体的に利用時間が多い。工学部、大学院では10時間以上が多い。学習利用かゲームかは不明であるが、かなりの時間をインターネットに費やしている学生像がうかがえる。
- 4) 所有する情報機器としては、全体の80%がノートPC所有している。今後、これらのリソースを活用する意味でも授業での活用や無線LAN整備を検討する必要がある。

これらのアンケート結果からは、学生の多忙な実態が浮かび上がってくる。生活習慣も変化しており、学業や健康面への影響が大きくなってきている。

日頃の生活実態－福大生は夜も忙しい？－



大学の授業—学部—

1) 授業の出席状況

どの授業もほとんど出席している学生が、専門科目、共通・教育科目とも多いが、「一部の授業を除いてほとんど出席している」「どの授業も出たり出なかったり」「一部の授業を除いてあまり出席していない」学生もいる。

2) 出席しない理由

授業に魅力がない、大学が面白くないといった学生が小人数ではあるがいる。このような学生に対しては、将来的に休学などの可能性もあるため、より一層の授業の改善等も必要である。

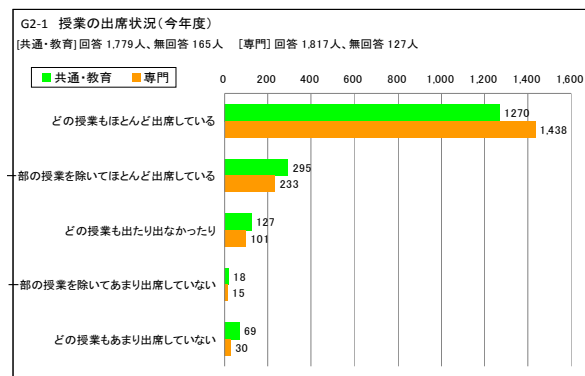
3) 理解度

理解できないものがかなりあるとの回答が最も多い。学生の学力にも起因している可能性はあるが、授業の工夫と学生個々人の勉強時間を増やす働きかけを考える必要がある。

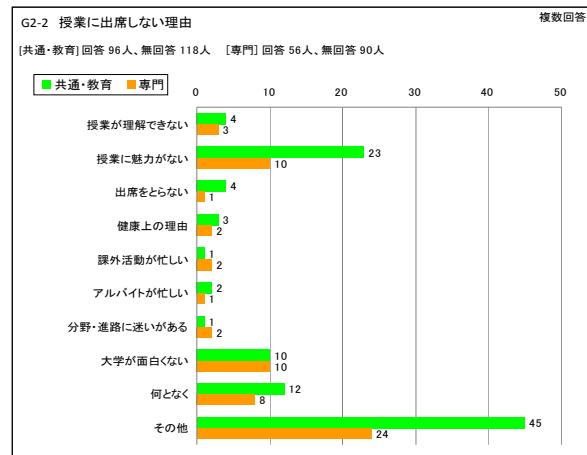
4) 満足度

満足できないものが多少あるとの回答が最も多い。授業の理解度とも関連している項目でもあり、今後授業の工夫が求められる。

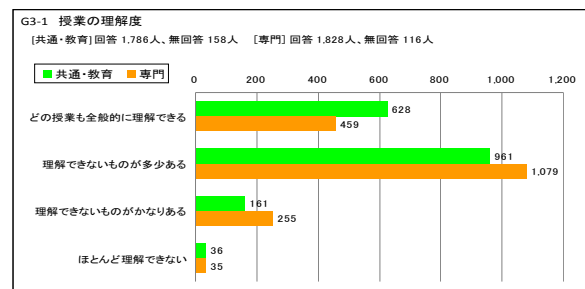
出席状況



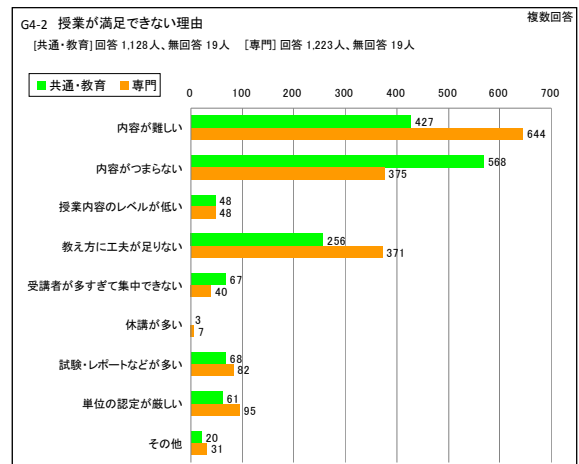
出席しない理由



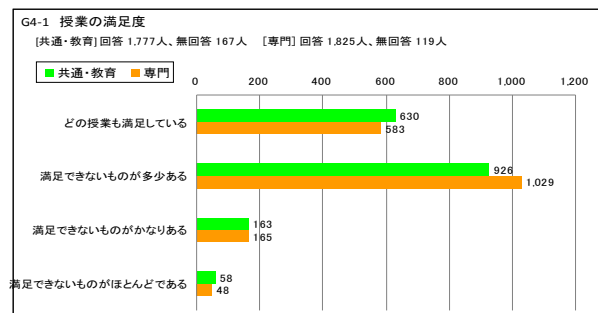
理解度



満足度できない理由



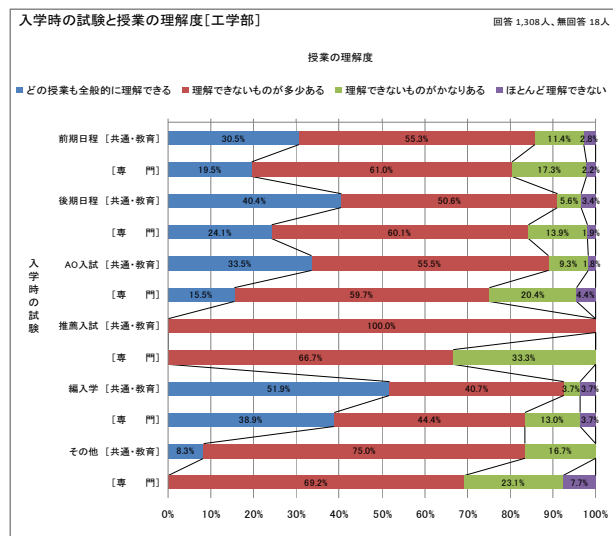
満足度



5) 入学時の試験と授業の理解度

A0、推薦入試で理解度が低い学生が多い（工学部）。「どの授業も出たり出なかったり」～「あまり出席していない」が少数でも注意が必要である。不登校、引きこもり学生の存在も考えられるため、学生との面談も必要である。

入学時の試験と授業の理解度（工学部）



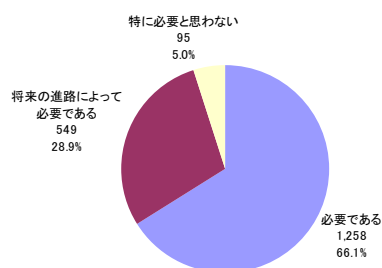
◆語学力の向上

海外への留学希望が多い。希望の学生に対する具体的な支援策の検討、語学センターを中心とした総合的な支援が必要である。

学部

学部

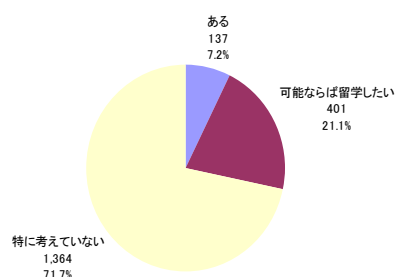
G6 語学力(英語)向上の必要性
回答 1,902人、無回答 42人



「必要である」

学校教育課程（教育地域科学部）	58.2%
医学科（医学部）	72.9%
工学部	67.6%
大学院	75.8%

G7-1 在学中又は卒業後の海外留学（語学研修も含む）希望
回答 1,902人、無回答 42人



「(留学希望) ある」+「可能ならば留学したい」

学校教育課程（教育地域科学部）	72.7%
医学科（医学部）	48.5%
工学部	24.0%
大学院	33.9%

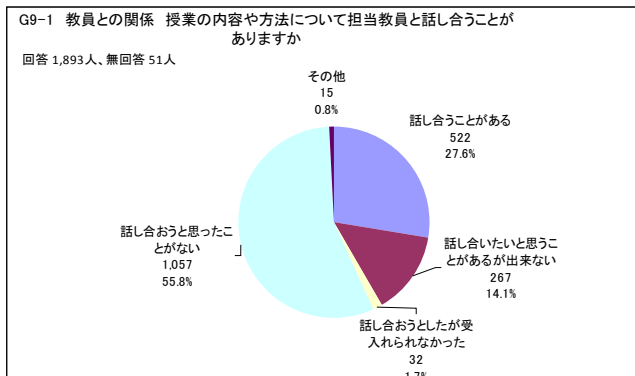
教員との関係

「助言教員・学年主任が分からない」学生がいる。

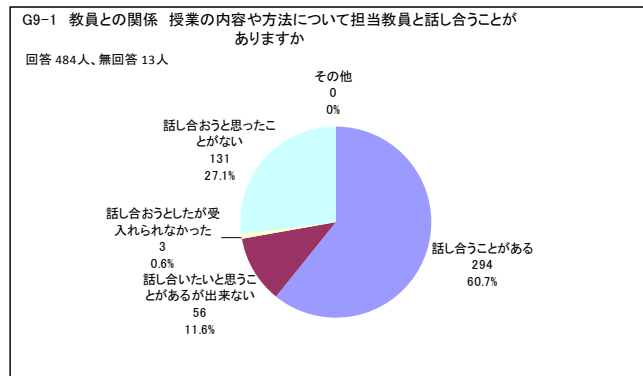
「話し合おうと思ったことがない」学生が半数以上いる。本制度の周知など、改善が必要である。

教員への期待については、850名の学部学生が「現状のままでよい」と答えているが、538名が「授業方法を工夫してほしい」、「授業内容を充実してほしい」(317名)、「気軽に話ができる雰囲気してほしい」(321名)となっている。今後、授業内容の充実や学生とのコミュニケーションがとれる工夫が必要である。

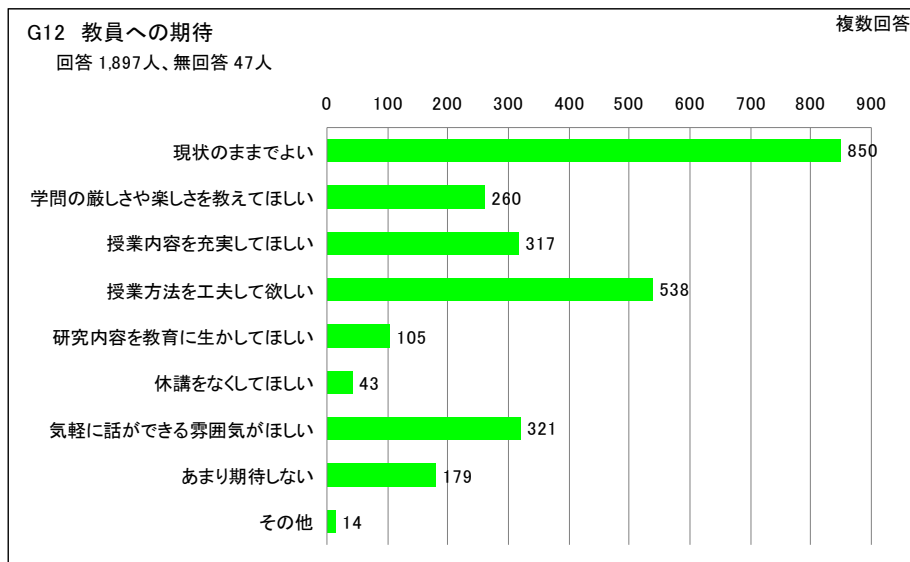
学部



大学院



◆教員への期待（学部）



三部門の取り組み

「入試企画部門」「FD・教育企画部門」「学生支援部門」

FD・教育企画部門

FD・教育企画部門長 田村 信介

2011 年度活動目標

FD教育企画部門では今年度の活動目標に次の 6 つを掲げています。福井大学の教育の充実に向けて各位のさらなるご協力をお願いします。

1. 全学FD・SD

昨年度から全学的なFD・SD集会を開催していますが、今年度も 12 月開催を目標に企画を立案中です。各部局からの積極的な参加をお願いします。

2. 5 段階評価導入準備

昨年度は GPA 制度の導入を検討しましたが、その効果と影響を考慮し時期尚早と判断しました。しかし GPA で採用している優、良、可、不可に秀を加える 5 段階評価には、個々の学生の学修目標設定や、教員の学修指導に対してより適切な情報を提供できる、成績分布などの分析がきめ細くなり講義資料や講義方法の改善により役立つようになる、優秀な学生の勉学意欲が高まる、などの効果が期待できます。既に各学部からはご意見も頂いており、来年度導入を目標に 5 段階評価導入の準備をお願いする予定です。

3. 教育プログラム評価システム

各学部のカリキュラム・ポリシーを含む教育システムやその効果を評価する仕組み確立の一環で学生を対象にしたカリキュラムに関するアンケートの実施を検討しています。本年度は試験期間と位置付けて、既に実施している医学部に習い教育地域科学部と工学部の一部で試験的に実施する予定です。

4. 初年次教育の充実、教育方法の改善、国際化

今年度は各学部、研究科に分散するデータを収集する目的で、全学で学内の活動内容を共有し、またセンターがそれらの活動を支援する仕組みのあり方を検討する予定です。まずはホームページに登録・掲載された学内の活動に対して、センターが国内外の参考事例や各種の助成事業を紹介したり、助言や資金面で支援したりするようなことを考えています。また各教員の授業の準備や講義の工夫などに関するアンケートを実施する予定です。

5. 教育課程の体系化・構造化

まずは教養教育の体系化を目標に、今年度発足した共通教育検討委員会での検討結果などの情報を集める予定です。

6. 学位授与方針の策定と公表に関する提言

今年度中に各学部のディプロマ・ポリシーが出そろいますが、ポリシーおよびポリシーと他の施策との整合性をチェックする枠組み作りに向けて国内外の事例を収集する予定です。

入試企画部門

入試企画部門長 大久保 貢

入試企画部門では、昨年度、入試広報の在り方について重点的に取り組むこととし、企画立案・提言を行いました。最近、本学では入試広報に関して在学生在が担当する場面は多々生じています。そしてここ数年、大学説明会等の機会に在学生在がプレゼンテーションや相談活動を行う事業を積極的に展開しています。今回は、学生による入試広報：「キャンパス大使制度」に沿って実践した下記の2つの取組について報告します。

【母校での入試広報】

平成23年2月にキャンパス大使として工学部の1年次学生が母校：静岡県立吉原工業高校で入試広報を行いました。同高校では将来の夢や進路の発見に役立てる特別授業「夢未来塾」を開催しました。これは大学進学を視野に「高校時代に何を実践しておく必要があるか」をテーマに据え、同校を卒業した学生が講師として同校の理工学科の1,2年生の76人を対象に大学で学ぶ意義について講話を行いました。内容は大学進学する目的に、勉強、友達、趣味、自立などを挙げ、「大学に行かないと得られない貴重な財産」だと指摘しました。また勉強する意義を「化学技術で環境汚染を阻止したいといった夢があれば、大学で技術者に必要なことを学ぶことができる。身に付けた知識や技術が将来の財産になる」と話しました。そして大学生として過ごす4年間を「将来の夢に近づくため、自分を磨き成長するための時間」ととらえ、「大学で財産を得てから社会に出ることで、きっと将来も変わってくると思う」と意義を強調しました。

この特別授業終了後、高校の教職員から卒業生の話聞いて、約9カ月前まで高校生だったと思えないほどの成長ぶりで大変嬉しかったとの感想を頂きました。また卒業生の話聞いた生徒の感想を下記に示します。

- ・先輩の話聞いて、大学に行こうという気持ちがさらに高まりました。
- ・大学について色々な話を聞くことによって大学に対する興味が出てきました。これから自分の中にできてきた動機を大きくしていきながら大学についてのことを勉強して探していきたいと思います。
- ・今回の話を聞いて、大学へ行く明確な動機を早く見つけたいと思った。



【学生による入試相談】

平成 23 年 3 月に福井市内で開催した進学相談会（業者主催）にキャンパス大使としての教育学研究科の学生が、来場した高校生、保護者に対し教育地域科学部の教育内容、実践している活動、学生生活について説明を行いました。相談に来た高校生に学生の対応について聞いたところ、下記のとおりでした。

- ・ 学生さんの生の声が聞けて良かった。
- ・ 学生さんの話がとても参考になりました。実際に大学に通っている人から話を聞くことができ良かったと思います。
- ・ 福井大学に入学することを希望しているなか、学生さんの個別相談はとてもリアルで参考になりました。

このように入試相談の参加者からは学生の活動に対して高い評価が示されています。

また、入試相談の対応を行った学生から次のような感想が寄せられました。

「高校生に説明する中で他大学にはない福井大学独自の取り組みがたくさんあることに気付いた。ライフパートナーや探求ネットワークなど、文科省から評価をされているものもあり、改めて福大の教育の質の高さを感じることができた。そして、自分が高校生のときにどんなことに関心を寄せていたり、考えたりしていたかを振り返るいい機会になった。意欲ある高校生と話をする中で、自分も初心を忘れず、がんばらなくては・・・と気持ちを新たにすることができた。」

以上のように、学生による入試相談は受験生への広報効果のみならず、担当学生自身が持つさまざまな能力開発への寄与が期待されます。即ち、入試広報を担当する学生が自らを振り返りながら受験生へ自身の有する知識や経験を明示することにより、実は専門分野の知識への理解を深めるという副次的効果をもたらすと考えています。



学生支援部門

学生支援部門長 上野 栄一

高等教育推進センター学生支援部門 平成23年度活動目標

平成23年4月26日 学生支援部門会議

平成22年度からの検討課題

学生支援体制のもとでの具体的な取組及び総合的な支援策の検討

- ① 学生支援体制を有効に機能させるための具体的な方策の検討、総合的な学生支援体制への拡充
- ② 就職ガイダンス、就職相談などの実施、各学部等の特性に応じたキャリア教育、国家試験対策の実施、インターンシップ制度の活用など、学生の就職支援の充実
- ③ 外国人留学生の修学支援及び就職支援の推進
- ④ 附属図書館・医学図書館のサービス向上、利用環境の充実と学生の利用促進
- ⑤ 健康相談・学生相談体制の充実、学生の成長発達の支援
- ⑥ 学生の自殺等防止への対策
- ⑦ 学生の安否確認システム（連絡網）等の構築

コミュニケーション能力やビジネスマナー、キャリアデザイン等の教育に関する提言

- 学生の基礎教育、就職支援
- 社会人基礎教育、留学生向け研修カリキュラム（職業教育分野で産業界との連携）
- 医師国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験、助産師国家試験の対策

学生が主体的に学べる学修環境の提言

- 図書館の延長開館
- ゼミ室の確保・有効利用

学生の健康増進に関する提言

- メンタルヘルス、感染症対策

学生の修学環境を点検し、必要な施設・設備の充実及び改修・改善

- ① 学内の修学環境の点検、安全なキャンパス作りの推進
- ② 施設・設備の点検強化、学修環境の改善

平成23年度追加課題

学生生活実態調査結果の分析・評価及び学生支援

- ① 学生生活実態調査結果の継続的な分析・評価及び改善への反映
- ② 学生の経済支援を中心とした支援策の検討

学生の経済的支援策の提言

- 奨学金、授業料免除（大学独自制度を含む）
- ステューデント・アシスタント
- 私費留学生支援
- 派遣留学支援 など

学生の満足度調査などによる点検・評価の検討

- ① 学生への支援に対する評価の実施
- ② 評価に基づく分析を通じた更なる支援

学生支援に関する研修・研究会の実施

- ① 全学メンタルヘルス研究会等の開催

高等教育推進センター活動日誌

2011.1-7

- 平成 23 年 1 月 20 日 第 6 回 学生生活実態調査ワーキンググループ
2 月 4 日 第 7 回 FD・教育企画部門会議
2 月 23 日 第 7 回 運営委員会
3 月 1 日 第 4 回 学生支援部門会議
第 7 回 学生生活実態調査ワーキンググループ
3 月 10 日 福井大学 FD シンポジウム 2011
4 月 25 日 平成 23 年度第 1 回 FD・教育企画部門会議
平成 23 年度第 1 回 学生支援部門会議
第 8 回 学生生活実態調査ワーキンググループ
4 月 28 日 平成 23 年度第 1 回 運営委員会
6 月 1 日 第 1 回 カリキュラム評価アンケート実施検討ワーキンググループ
6 月 2 日 第 1 回 教員実態調査実施検討ワーキンググループ
6 月 9 日 第 1 回 共通教育検討委員会
6 月 15 日 第 2 回 カリキュラム評価アンケート実施検討ワーキンググループ
6 月 20 日 第 2 回 学生支援部門会議
6 月 21 日 第 2 回 運営委員会
6 月 22 日 第 2 回 FD・教育企画部門会議
7 月 4 日 第 1 回 教員実態調査実施検討ワーキンググループ
7 月 14 日 第 2 回 共通教育検討委員会

福井大学高等教育推進センター Newsletter の第 3 号です。昨年行われた学生実態調査の結果が特集されています。次号からは新しいメンバーの協力も得て、より迅速な編集・情報発信を目指していきたいと思います。(Y)

福井大学高等教育推進センター Newsletter No.3

2011.7.30

編集：福井大学高等教育推進センター運営委員会
福井大学 学務部教務課

〒910-8507 福井県福井市文京 3 丁目 9-1

TEL 0776-27-8400